

果樹病虫害発生予察調査結果（10／7調査分）
（三条、加茂、田上地域）

10月7日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共通）

- 越冬害虫（カイガラムシ類・ナシヒメシンクイ・ハダニ類・ハマキムシ類・ニセナシサビダニ等）の発生密度を下げるため、粗皮削りを行いましょ。病害の越冬伝染源を減らす効果もあります。
- ももを中心にカイガラムシ類の寄生が多数確認されている園地があります。寄生の多い枝は剪定時に切除しましょ。切除できない幹や主枝の場合、高圧洗浄機やワイヤブラシでこすり落とす等で対応をお願いします。
- 上記対策は受粉樹にも行いましょ。

（ナシ）

調査地点ごとに5新梢を調査しました。

- 黒星病の越冬伝染源を減らすため、収穫後防除とともに、落葉を粉砕しすき込む等の処理を行いましょ。
- セイヨウナシ褐色斑点病の発病は増加が続いています。また、一部ではごま色斑点病り病葉が確認されました。いずれも落葉後に葉を収集・処分し、越冬伝染源を減らしましょ。
- 黒変やかさぶた状の花腐細菌病枝病斑を翌年に持ち越さないよう、剪定時に枝をよく確認して除去しましょ。

（ブドウ）

調査地点ごとに100葉を調査しました。

- 褐斑病・べと病り病葉が確認されています。剪定枝・巻きひげ・落葉は園外へ搬出し、越冬伝染源を減らしましょ。

(モ モ)

- 来春、せん孔細菌病春型枝病斑が増加しないよう、落葉期までに収穫後防除を実施しましょう。

なお、これに関連した病害虫や生育の情報等については、農業普及指導センターよりJAを通じて送付される予定です。

担 当：中越支所 果樹共済係 TEL：0258-36-8105 FAX：0258-34-8020
--